

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心して生活していただけるよう、その人らしい生き生きとした楽しい生活の支援を理念として掲げている。又、地域の方々との交流も増してきている。		その人らしい今迄と同じ生活ができるよう、本人や家族の意向を聞き入れた生活の支援を行っている。(外出・外食・買い物等)
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員・家族に対し、朝礼・行事毎に理念について説明し支援の具体的方法について話をしている。	○	ホームの理念について、職員全員に支援方法について勉強会・新人職員には必ず研修(勉強会)を行っていきたくと考えている。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会・行事・運営推進会議毎にホームの支援方針を理解していただけるよう説明している。		ホーム便りや季節の行事、介護教室や運営推進会議など地域の方々との交流を増やしその機会に理念の啓発に取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々のご挨拶はもちろんのこと、何かの催し物や行事がある時は参加していただくよう声をかけたり、掲示板に貼ってお知らせしている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事(夏祭り・自治会役員会・学校卒業式・トライやるウィーク等)に参加させていただいたり受け入れ等、積極的に関わりを持っている。	○	今後、地域の行事に参加するだけでなく、職員や家族も行事のお手伝い出来るような関係づくりが出来ないかを考えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々を対象とした介護教室を開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、介護の質の向上に向けて改善点を見つけ出し、見直しを行っている。	○	マンネリ化を防ぎ、常に利用者に対し安心できる生活を提供できるよう職員のスキルアップを計る。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他施設の職員。民生委員さん・家族さんの意見や情報をサービス向上に活かしている。		
9 ○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議等の結果報告のみであり連絡や行き来する機会が少ない。	○	市へは結果報告のみなので、運営推進会議に参加していただくよう区職員に協力を呼びかけている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修があれば参加希望したいが、なかなか機会がない。又、必要な利用者は社会福祉協議会に相談している。		金銭管理が必要な利用者に対してはあんしんサポートセンター(りんりんネット)に依頼している。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が一人で悩みを抱え込まないよう、職員同士で話し合いの場を持つよう心がけている。	○	定期的にフロアー会議やカンファレンスを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	契約時に運営方針や重要事項の説明を行い、納得していただいた上で入居していただいている。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	職員はいつでも利用者の訴えを傾聴できる状態にあり、それを親身になって聞く思いやりを持つよう心がけている。	○	職員が話しやすい雰囲気を作り、相談等があれば親身になって話を聞き改善点があればカンファレンスを行っている。
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告	毎月の一筆箋や、面会時に利用者の生活ぶりを報告して安心していただいている。又、ホーム内での出来事は、ホーム便りにてお知らせもしている。	○	職員が話しやすい雰囲気を作り、相談等があれば親身になって話を聞き改善点があればカンファレンスを行っている。
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
15	○運営に関する家族等意見の反映	苦情相談係や、職員が家族来訪時に意見・苦情があるか確認をさせてもらっている。又、意見箱も設置してある。		
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
16	○運営に関する職員意見の反映	管理者は常に職員の意見を聞けるようコミュニケーションを取れる努力をしている。又、良い意見を取り入れるよう心がけている。		
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整	状況の変化に応じて、臨機応変な対応ができるよう職員とは話し合って納得してもらった上で調整を行っている。		
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動は不定期にあるが、利用者のダメージを防ぐため1~2人の必要最小人数におさえ、信頼関係にあり馴染みのある職員は、移動後もできるだけ移動前のフロアを訪問する配慮をしている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験や個性に合わせ、順次外部の研修を受けている。又、職場内でも実践的に行っている。</p>	<p>○</p>	<p>新人研修マニュアル（ホーム理念・衛生管理・感染予防・支援方針・管理記録等）を作り、入職時に徹底した教育をする。 *現在、新人研修マニュアルを作成中</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設との間で、見学会や研修会議で交流や連携を計っており、相互に情報・意見の交換を行い質の向上に取り組んでいる。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>不定期ではあるが、ホーム内全体の親睦会や各フロアごとの親睦会を行っている。月に1~2回フロア会議を行い、解らない事、思っている事を話し合っている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個人個人の良い所を評価するように努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>複数回の面談の機会を持ち、ご本人・家族からの聞きとりを行う。入居後は、信頼関係の構築と生活スタイルの把握に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前・入居後と聞き取りを行い、受容と共感の姿勢に努めている。入居後の生活は細めに報告・相談を行っている。</p>	
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当グループホームの理念・詳しいサービス内容の説明を行うと共に、介護サービス全般における説明・提案を行っている。</p>	
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご本人が納得した上での入居を前提とし、入居前に見学に来ていただき利用者の方々と一緒に会話等をして、雰囲気味わっていただきます。入居時には、今迄使用されていた生活用品(茶碗や箸等の食器類や布団・衣類等)を持ってきていただく。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活において利用者のできる事を見つけだし、それを利用者の日課として生活の中にとり入れ、他利用者との共同生活を支えていただいている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族との外出や外泊を楽しんでいただいたり、家族同行での受診など協力を得ている。		
29	○利用者や家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム入居という手段を設け、利用者とその家族には互いに生活空間の場に距離が保てる様になっている。又、入居生活の様子を定期的手紙や電話連絡を行い家族に対し精神的フォローを行っている。面会時には家族でゆっくりくつろげる場を確保している。		少しのことでも家族や利用者が職員に対し遠慮して言えないことでも言えるような環境作りをする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅の辺りをドライブにお連れしたり、希望者には依然行かれたお寺参りなどにお連れしたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	交流を深め、よりよい人間関係の構築に努めているが、各利用者の性格的なものや行動障害などが障害となっているケースもある。	○	利用者同士がより良い関係で生活できるよう食卓席の配置や、職員の声かけなど配慮している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在そういうケースはありません。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の意向をとりいれている。ただし、本人の意向がいただせない利用者に関しては、こうしてほしいだろうという利用者の気持を生活をしながらくみとるようにしている。	○ 職員本位の意向にならない様に充分注意していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人もしくは家族に以前の生活歴を聞いている。本人の得意なことなどは、手伝っていたいている。	○ 今までと同じ様な生活は無理だが、それに近づける様支援していく。又、センター方式に取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的にあセスメント・モニタリングを行いケアプランの見直しを務めているが出来てないこともある。	○ 定期的に見直しを行ったり、出来る様に職員の意識レベルアップを考えていく。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの希望や意向を聞いて、その人らしく生活ができるよう支援できる介護計画をたてる努力をしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則的には6か月に1回の介護計画の見直しを行う予定であるが、変化が生じた時は家族や関係者と話し合いその都度見直しをする様に努力している。	○ アセスメント・モニタリングは定期的に行うようにし、職員どうしの情報を密にし、利用者の現状を把握する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の個人カルテを作成。ケアプランにそった実践を取り組みモニタリングを行い、新たに、出来ること出来ないこと出来ないことを次回の計画に取りいれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて必要な時に必要なサービスを提供している。(医療連携体制・外出・外泊等)		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に消防訓練を行ったり、地域の小・中・高性と交流をはかっている。運営推進会議にて理解を深めて頂けるよう情報交換を行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ利用していない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	介護保険更新時、認定調査の協力をいただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前にかかりつけ医がある場合もしくは、ご家族・ご本人の意向があれば、そこを受診していただいているが、必要があれば医療連携体制にて支援している。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>開設時より、精神科のある病院を受診していた利用者がいた為、医師との関係もよく相談にもものついでいただいているケースワーカーとも連携がとれている。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療連携体制も整っている為、24時間看護師と連絡がとれる状態にある。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>家人の意向により退院希望される時は、病院との情報交換を密にとり退院後も医療連携体制が整っている事にて安心してホームの生活に戻っていただいている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に対する指針は入居契約時に家族には説明し確認をいただいている。現在迄は当ホームでターミナルを迎えた入居者はいない。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医療連携体制にて支援している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に話し合う場を持ち、日々の生活習慣や情報交換をおこなっている。又、今まで使用されていた家具・食器類など持参して頂くことにより、ダメージを防ぐように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を尊重し、声かけの時は還俗として「○○さん」と性で呼んでいる。記録等の個人情報はスタッフルームにて管理している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ふだんから利用者が職員に気軽にものをいえる人間関係を築くよう努めている。本人の意思を尊重し、自己決定できることはご自分で決めて戴いている。職員が各人の理解力に応えた状況をしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	三度の食事・口腔ケア・おやつ・訪問医療など、一日の流れでほぼ決められた時間帯に実施する事柄以外各人自由に過ごされている。外出の希望があった場合、できるだけ応じるようにしている。		
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装に不備がある場合(パジャマの上にブラウスを着ているなど)介助し、身なりを整えている。2か月に1度は訪問理美容を実施している。家人と一緒に行きつけの美容院へ行かれる利用者もいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、片付け等一人一人の能力を見極め、その人の役割作りを支援している。又、男性だから出来ないと決めつけず、いっしょにやってみるから始めている。		
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物・おやつに関してはご利用者に実際に選んでいただいている。現時点ではお酒・たばこは支援していない。	○	行事・イベント時にお酒(アルコール)を提供できる様に家族にも協力を得たい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間おむつの方でも日中はリハビリパンツ+パットにしている。トイレ誘導の声かけが必要な方は頃合いをみて声かけているなど個人の排泄パターンや排泄前のシグナルを感知しそれに応じた対応をしている。排泄チェック表を見て常時下剤調整をおこなっている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在の所、曜日・時間帯(午前浴)での入浴を行っているが、ほとんどの利用者はそれになれたのか、自ら今日は入浴の日ということを理解されている。拒否が見られる利用者に関しては曜日・時間にとられない様支援している。又、5月は菖蒲湯12月はゆず湯などを行っている。	○	入浴剤の使用、温泉に行くなど気分転換となる入浴方法もとり入れていこうと考えている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	24時間自由に居室に出入りできる。内側から施錠することで完全にプライバシーが保たれる。居室において好きな時に休息したり安眠できる環境が整っている。不眠時はホットミルクを提供したり職員とTVをみて過ごすなど無理に入眠を促さないよう不穏にならないような支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前、入居時に生活歴をお聞きしている。それをふまえたケアプラン作成・実行を実施している。	○	管理者およびリーダーが職員一人一人が業務優先にならない様、利用者を主体とした生活ペースで動ける様くりかえし日々職員に伝えられる様にしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は自分で所持していただき、管理できない利用者には必要に応じてお渡ししている。買物など一緒に行かれた時はレジにて個人で支払って頂いている。使った時は金銭出納帳に記入し、家人様に確認していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ・散歩・買物などを行っている。季節の変化を楽しんで頂くために定期的に遠足などを企画・実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今まで行っていた美容室など家人様の協力を得て動向して頂いている。又、お寺参りなど入居前の習慣はできるだけ支援している。行ってみたいところをおうかがいし、遠足等にとり入れている。	○	1年に1度でもご本人の行きたい所、家人様がお連れしたいがいっしょに行ってあげられない所など個別に支援する方向に持って行っている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、一筆箋を書いて現状を報告している。又、その時に利用者が書かれた手紙も同封することがある。本人が電話をかけたいと申し出があった場合はその都度応じている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家人様が来られた時は、時間に関係なく居室でくつろいで頂いている。又、居室で食事を召しあがることもある。又、フロアにも食堂のイス・テーブルとは別のソファやテーブルセットを設置し利用されている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転落防止の為にベット柵を設置してほしいという家人様の意向があり1例のみ行っているが、他に関しては身体的束縛をしないケアに取り組んでいる。	○	職員間で身体束縛に対する意識の差がある為、今後新人研修・職員研修にも取り入れていく予定である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自室がわからなくなって他の居室へたびたび入る為、他の利用者がそのことで不穏になったりトラブルを起こす為に鍵をかけることもあるが、出来るだけ見守りで対応している。玄関は施錠している。	○	今後は入口の全開錠に向けた支援を検討している。 例)入口に音の鳴るセンサーを取り付ける等他の施設を見学し検討中
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	すべて個室にてプライバシーが守れ、24時間体制にて安全も確保できている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	食べられる物・飲める物と間違えたりしてしまうことがあってはいけない為にユニットによっては、洗剤等の有害な物は手の届かない場所に保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者それぞれに起こりうる事故のケースを予測し、防止の為のかかわりを行っているが、事故後の対応・対処方法には改善の余地がある。	○	マニュアル作りだけでなく、研修等を定期的に行えるようにする。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜勤など急変が起こった場合他のフロアーの職員と協力して対応している。又、緊急連絡網にて、すぐに上司にも報告がいくようになっている。	○	新しく入った職員の中には救急救命士の研修を受けていない者もいる為、早期に研修を受けられる様にシフト調節を行う。(ほとんどの職員が救急救命士の研修をうけている)
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防訓練を実施している。	○	地域運営推進会議での内容にも火災について消防訓練を自治会と協同で行いたいと伝えている。今後、地域での訓練に参加することや、地域の方が参加できる様な訓練を企画し実施していこうと検討中である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時等利用者のレベルに応じて家族には生活上起こりうるリスクを説明し、又、実際に事故が起こった場合速やかにチームカンファレンス家族への連絡を行い対応策を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック・活気の有無など気付いた事は申し送りや生活記録に書残し情報を共有している。		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の服薬内容を把握する為に処方箋は各個人ファイルにつづり内容の変更時などはフロアーのノートで申し送り確認の徹底を行っている。服薬による状態の変化は訪問診療・訪問看護・薬剤指導の際に伝えている。薬の管理はすべて施設側は責任を持って行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中の運動や、繊維質の食事をとるよう心がけておりヨーグルトや一定量の水分摂取や食事により排便を促している。排泄チェック表にて排便の有無・量・形状を把握し、医師の指示にもとづき下剤を用いて排便のコントロールをしている。長期の便秘の際は排便ショックなどの特変も考えられる為受診又は訪問看護で処置してもらっている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを行っており各入居者の口腔状態や介助の必要の有無を見極め清潔保持に努めている。又、定期的な歯科往診を受けて頂き、医師の指示にもとづき対応を行っている。毎食後の口腔ケアの実施により現在では習慣づいている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の口腔状態、嚥下能力に応じて食事形態を変えている。各家族の協力を得て好みに応じた物を提供できる様に努めている。又、チェック表を用いて食事を把握し補食・おやつを提供するなど、一定量を確保できる様に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	一行為、一手洗いを徹底し、入居者を含めうがいを随時行い予防に努めている。又、入居者・職員共に年1回インフルエンザ予防接種を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、前日に食品業者から新鮮な食材を配達してもらっており、配達後の管理も徹底している。調理器具・食器を熱乾燥により清潔保持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の表札周りに花壇をできるだけ増やし、アットホームな雰囲気作りに努めている。又、行事がある時には近隣にポスターを貼り、一般の方にも入りやすい環境作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある置物・花などを置き、家庭的な雰囲気を出し居心地よく生活できる様に努めている。又、廊下の照明を増やして明るくし、夜間でも見えやすい状態を保ち安全確保に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室では自由に過ごしてもらい、共用空間では他入居者と過ごせる様、ソファやテーブルを考えて配置している。利用者間でお互いの居室を行き来しておられる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力を得て、昔から使いなれた物を持って来て頂き、居心地の良い空間づくりに努めている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝の換気を行い入居者に合わせた温度調節を行っている。又、掃除の時なども換気を行い浴室・トイレなど換気扇が回っている状態にしている。汚染物に関しては新聞紙でその都度包み臭いや現物が見えない配慮をしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設全面バリアフリーで至る所に手摺を付けており安全に生活が送れる様支援している。居室内においてはその人その人に見合った福祉用具を導入し自立支援を行っている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>各居室には表札を作りトイレや入浴時には声かけ手引き誘導にて混乱や失敗を防いでいる。大半の入居者が生活を重ねることで生活空間への認識を増やしてきている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>野菜や花を利用者が種より育て庭でつんだ花をテーブルや居室に飾り楽しんで頂いている。又、収穫した野菜は食卓にのせている。</p>		<p>裏庭に小スペースではあるが野菜や花を植え、利用者が自由に行き来出来る様取り組んで行きたい。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)